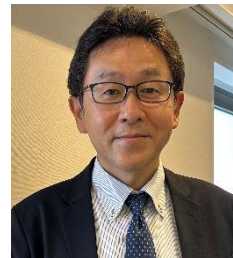


学校の検定試験 導入事例 【簿記能力検定】



新潟会計ビジネス専門学校
教務部 平 博之先生

新潟会計ビジネス専門学校 様

全国経理教育協会（全経）の検定試験を学校で活用いただいている、新潟会計ビジネス専門学校
の平先生に、検定試験の活用法や学校で取り組むメリットなどについてお伺いしました。

学校で簿記を学ぶメリットは、社会での“模擬体験”ができること。

生徒のコミュニケーション能力や問題解決能力が育まれているのが実感としてあります。

学校の簡単な紹介、平先生の担当教科を教えてください。

新潟会計ビジネス専門学校は、「会計の精神であるコミュニケーション能力と問題解決能力をそなえた人間力溢れた人材を育てること」を理念とし、学生たちが一生ものの資格と仕事に出会えるようサポートしています。税理士をはじめとし、IT ビジネス、経理、医療事務などの学科がある学校です。私は税理士試験、コンピュータ会計能力検定試験、中小企業 BANTO 認定試験などの指導を行っています。在学中の官報合格者（税理士試験 5 科目合格者）を輩出することができる学校になったことは、教師冥利につきます。

勉強だけでなく、「ヘイ吉のハートの授業」もご好評いただき、新潟県内でも 40 校以上の学校で講演させていただいています。これは、毎年行われる「全国簿記電卓競技大会」で優勝できなかったとき、どのように悔しさを乗り越えるか、来年へのモチベーションにつなげるかという動機付けの授業を行ったことが始まりでした。学びと心は密接に関わっているので、どちらも育んでいけるようにと考えています。



いつ頃から学校で簿記に取り組まれているのでしょうか？

私自身は平成 2 年から簿記を教えています。新潟会計ビジネス専門学校にかぎって言えば、平成

9 年の学校創立時からずっと簿記教育に取り組んでいます。

1 年生で基礎的な簿記を学んで、年次が上がっていくとカリキュラム的に簿記から離れてしまうことがあります。そのようなとき、全経の「コンピュータ会計能力検定試験」や「社会福祉法人経営実務検定試験」が、学習簿記と実務簿記の違いを埋めるためにとても役立っています。

学校で扱っている全経の検定試験は何ですか？

現在は、簿記能力検定試験、電卓計算能力検定、税法能力検定試験、社会人常識マナー検定試験、社会福祉法人経営実務検定試験、中小企業 BANTO 認定試験、コンピュータ会計能力検定試験になります。

「簿記能力検定試験」を受けるのは、どのくらいの割合の学生さんですか？

本学の学生は 100%簿記を受験します。ゆっくりコースは全経簿記の 3 級から順番にステップアップしていきます。上位クラスは、全経の簿記上級を目指して勉強します。3 級の試験はほとんどの方が合格しますが、難易度の高い検定試験、例えば簿記 1 級や上級は何回もあきらめずに挑戦する学生もいます。

「簿記能力検定試験」に合格した学生さんからの声などをお聞かせください。

学生の中には、入学前の勉強に挫折し、自信をなくしてしまった方がいます。簿記に出会って、

段階を踏んで勉強していくことに達成感を覚え、頑張ることができるようになった方もいます。簿記に合格した学生からは、「世の中や会社の仕組みを理解できて、会社への不安をなくすことができた。」という声もありました。

卒業生の就職先はどんな所が多いですか？

税理士法人、会計事務所、経営アドバイス、コンサル会社などが3割。4割が一般企業の経理。あと残りは金融関係、JAグループ、日本郵政、まれに営業に進む学生もいます。簿記のことがわかっている営業というのは数字に強いので、活躍できると思います。

印象に残っている学生さんはいらっしゃいますか？

たくさんいます。中でも、「在学中に税理士5科目とりたい」という目標を掲げて入学してきたある学生は、大きなインパクトを残していきました。彼は最初の登校時に上下黒のジャージに金のネックレス、派手な色に染めた頭髪で現れました。ですが非常に真面目で、自分の学習を妨げるのは何か考え、スマホだと気づいてその場でへし折ったという逸話をおぼろげに記憶しています。その後、テレビも必要ない、ということで実家に送り返し、ひたすらに勉強して在学中に官報合格を成し遂げました。今は税理士として立派にやっています。



学校で検定試験を実施するメリットとはどんなことがあるのでしょうか？

メリットは、社会に出たとき必要になることの“模擬体験”ができることだと思っています。検定試験は試験日が決まっている。それは、会社で例えると納期が決まっている仕事をするのと同じ

です。納期から逆算してスケジュールリングして目的を達成する。自分で合格に向けて工程を組み立て、実践することが貴重な経験になります。また、クラス全員が同じ目標を持つことで、コミュニケーションをとりながら、全体でひとつの方向に向かっていく、これはまさに企業のチームでの模擬体験ともいえるでしょう。簿記の精神にある、コミュニケーション能力、問題解決能力が育まれているのが実感としてあります。

税理士試験5科目同時合格を目指すうえで、基礎力を育むのに全経簿記は大きく役立っているとも感じています。社会に出る前に、こういった体験をしておくことは強みになると思います。

また、全経の試験ラインナップは、バランス良くステップアップできるようになっていると感じています。クリアするステップを小さな目標にすることにより、自信をつけながら一步一步前に進んでいける。専門学校に入学される学生の中には、勉強に自信がない子もいるので、勉強方法実践のベースとしても、自信をつけるという意味でもとても良いと思っています。

今後の簿記教育について思うこと

世の中には、人を騙すような良くないニュースが溢れています。「努力をするから成果がうまれる」という真理をきちんと学ぶと、人に騙されない大人に育つと私は信じています。昨今、簿記教育の機会が減少していますが、せっかく学ぶ機会があっても簿記が嫌いになってしまう、という学生も増えているそうです。ですが、正しい教育のきっかけさえ用意できれば、簿記に対して苦手意識を持たずに済むのではないかと考えています。国や企業がどんな仕組みで動いているのか、簿記を紐解いていけば知ることができます。自分に深い関わりがあるお金のことだからこそ、若い方にぜひ簿記を学んでいただきたいと思っています。

(2023年5月26日インタビュー)